

令和元年6月25日

発行者 栃木県養護教育研究会

会長 渡邊 恵美子

編集者 栃木県養護教育研究会事務局

栃木県養護教育研究会の益々の発展を願って



前栃木県養護教育研究会会長
渡邊 恵美子

令和元年6月25日（火）、宇都宮市文化会館での総会にて、田代哲郎新会長に会長職を引き継ぐことになります。2年間ありがとうございました。これまで、県立高等学校の校長先生方が引き継いでこられた会長職を、緊張とその職責の重さを感じつつお引き受けした平成29年度の春から2年が経ちました。平成30年度は本研究会にとって70周年という節目でもありました。この節目に関わることができたことを大変嬉しく思います。長い歴史のある会ですが、毎年多くの養護教諭が会員となり、日々執務する中での課題を追求し、研究や研修を積み重ね、会員全員が力を合わせ、養護教諭としての職の向上を目指して取り組んで参りました。その振り返りや成果を会誌「しろたえ」でまとめることに御尽力頂いた会員の皆様に感謝申し上げます。この2年間においても、春・秋の定期研修会、夏に実施されたレベルアップ研修会、研究成果や会員の声が集約された会誌「しろたえ」の発刊等を会員の皆様の力で実施することができました。ありがとうございました。養護教育研究会の会員の皆様の学びたいこと、意見、想い、希望、目標等が取り上げられ、共に成長していく会になったのではないかと思います。2年前、本研究会の会長になるにあたり、皆様と共に、この会を、更に、わかりやすく（Clear）、改善し（Change）、挑戦し続ける（Challenge）会にしていきたいと、三つの“C”を挙げました。通知の発送の仕方や研修会の持ち方などで、その改善に賛同頂き、実施できたことは役員の皆様を始め、全会員の協力のお蔭であり、感謝に絶えません。

今後も、児童生徒を取り巻く社会情勢は刻々と変化いたしますが、養護教諭の執務の『不易と流行』を捕らえ、基礎基本の遵守と課題へのスキルアップに寄与する会として、益々発展していくことを心よりお祈り申し上げます。退任のあいさつといたします。



「文部科学大臣優秀教職員表彰」を受賞して

栃木市立静和小学校 篠塚 紀子

この度、平成 30 年度文部科学大臣優秀教職員表彰をお受けいたしました。このような栄誉は自分に縁のないものと思っておりましたので、授賞の通知を受けて、本当に驚きました。平成 31 年 1 月 15 日に、東京大学安田講堂で受賞式があり、出席させていただいたのですが、翌日からは、勤務校でインフルエンザが大流行し学級閉鎖のクラスが続出、感染症対策も満足にできていない自分に受賞の喜びよりも、情けなさとしりぬさを感ずてしまいました。

輝かしいとされる受賞の瞬間ですら残念なことになっている私は、教員採用試験も 5 回受けています。教員生活のスタートから「優秀な」教員とはかけ離れていました。当時は臨時採用の枠もほとんどなく、少しでもスキルアップになれば、と少々畑ちがいの歯科医院や家庭教師のアルバイトをしながら採用試験の勉強をしていました。その後、やっとのことで教員生活をスタートしたのですが、年齢の割に養護教諭としての専門知識は足りないし、周りは何でもできる先輩ばかりだし、自分が間違ったことをしていないか不安で、たくさんの先輩方に教わりながら、真似しながら、どうにかやってきた 15 年間でした。

養護教諭は、とても魅力的な仕事だと思います。学校の中で、保健室という学年や学級にしばられない部屋を持ち、自分でレイアウトや掲示物を工夫することができます。また、毎日の業務にも、はっきりとした時間割を持たず、来室した子供たちに必要なことを最優先で考えていろいろな対応をとることができます。その反面、1 校で一人勤務のことが多く、周りの理解と協力がなければ、できないこともたくさんあります。きっと他の先生方も、いろいろな面でご苦労されているところではないでしょうか。

どの学校においても、養護教諭の立場からは、児童生徒の健康・安全面が最優先です。とはいえ、学級や授業の都合、家庭の状況なども考慮し、関係する方々と密なコミュニケーションをとりながら折り合いをつけていかなければなりません。何年経験を重ねても、何人の子供たちに関わっても、その都度、本当にその子のためになっているのか、もっと他の方法があったのではないか、という思いが必ず残ってしまいます。保健室で関わる児童生徒には一人として同じケースはありません。これから出会う子供たちにも、最善を尽くして関われるよう心掛けていきたいです。そして、時には、今までの失敗ばかりだった自分の経験も、何かの学びとして子供たちに伝えることができるといいなと思います。

最後に、授賞式を終えて今思うことは、この栄誉はけっして自分だけの成果ではないということです。これまで自分を指導し、育ててくださった勤務校の先生方と、それぞれの学校でお仕事をしながらもいつも気にかけてくださった養護教諭の先輩方、お互いの悩みを共有して励ましあった養護教諭の友人たちのお蔭であると実感しています。今後も、多くの人たちとの絆を大切にして、自分にできることを精一杯、努めていきたいと思っています。ありがとうございました。



全国学校保健・安全研究大会報告

足利市立山辺小学校 山本 晴美

○全体会講演

「発育期におけるスポーツの意義と課題」

日本臨床スポーツ医学会 理事長 河原 貴 氏

『人生 100 年時代に耐えうる運動器を獲得し、健康寿命を延伸するためには発育期の運動が大切で、特に子供の頃から運動することが大切である。しかし発育期は、骨の伸びに対して筋・腱の伸びが追いつかずストレスがかかり、軟骨に障害が起こりやすい。また、過度な運動はスポーツ外傷・障害を引き起こすリスクがある。この課題に対応・予防するには、発生状況を把握し、原因を分析、対策を講じ、成果を確かめるというサイクルが有用である。スポーツを安全に効果的に実施するには、スポーツ医・科学の知見を取り入れ、スポーツ外傷・障害をできる限り予防し、適切に対処することが必要である。』とお話しされていました。



第3課題 心の健康

「豊かな人間性と社会性を育み、心の健康保持増進を目指す教育の進め方」

研究発表

- ・心の健康問題への適切な対応を図るための支援体制について

鹿児島県日置市立妙円寺小学校 養護教諭 赤池 美保

- ・キャリア教育の一助としての心の健康づくり

長崎県立清峰高等学校 養護教諭 辻 圭子

- ・心身の健康課題の解決を目的とした健康教育の推進

埼玉県川口市立戸塚西中学校 養護教諭 真殿 愛弓

講義「子どもたちの心の健康を支える関わりの工夫」

跡見学園女子大学 教授 松寄 くみ子

指導助言者（コーディネーター）

熊本市立帯山小学校 教頭 藤高 ちよ

子供たちの心の健康を支えるために、「知識」に重点を置きすぎない、素朴で温かい、粘り強い支援を心掛けることが重要である。また、組織体制を整え、チームでの対応やその中での役割分担や情報を共有することが大切である。学校現場においては、日々実践している活動を丁寧に取り組んでいくことを心掛け、生徒の思いを受け止めながら指導にあたっていただきたい。

第4課題 現代的健康課題

「多様化する現代的健康課題に適切に対応するための保健活動の進め方」

研究発表

- ・生徒の心身の調和のとれた成長を目指した、性に関する指導の実践について

鹿児島県鹿児島市立西紫原中学校 養護教諭 藤田 倫子

- ・健康に関わる意志決定や行動選択を促す保健の学習の工夫

沖縄県立中部農林高等学校 養護教諭 島村 美由紀

- ・「親子で学ぼう 命のつながり」による性に関する健康教育

宮城県かわむらこどもクリニック 院長 川村 和久

講義「現代的な健康課題に適切に対応するための学校保健の取組」

東海大学体育学部体育学科 教授 森 良一

指導助言者（コーディネーター）

埼玉県幸手市立八代小学校 校長 鈴木 美江

性情報の氾濫など、子供を取り巻く社会環境が大きく変化しているこれからの時代、一人一人の子供たちが、しっかりと生きていくことができるように、性に関して正しい知識を身につけ、自ら考え、適切な意志決定や行動選択ができる力をはぐくむために、生徒の実態を踏まえた適切な指導を工夫していくことが大切である。

全国養護教諭連絡協議会研究協議会報告

那須塩原市立黒磯中学校 吉沢 幸子

去る2月22日（金）、メルパルクホールで開催された全国養護教諭連絡協議会研究協議会に参加してまいりました。ここ数年、自主研修として参加させていただいています。魅力的な特別講演、最新の情報が得られる基調講演やフォーラムは、まさに全国の養護教諭の取り組みの集大成。少しでもそのエキスを吸収したいという期待は裏切られたことはありません。

今年のテーマは「時代の変化に対応した養護教諭の役割を追求する」～『チームとしての学校』の力を高める養護教諭の役割とは～です。チーム学校の中での養護教諭の「役割は？」「専門性は？」私たちの日々の悩みを共有する貴重な機会です。

◆特別講演 「奇蹟のすぐそばにということ」

泉州広域母子医療センターセンター長

兼りんくう総合医療センター産婦人科部長 萩田 和秀 先生

ご存じの方も多いと思いますが、今回講演してくださった萩田先生はテレビドラマ『コウノドリ』の監修に関わっていらっしゃいます。関西の方特有の軽快な口調で、1時間30分があったという間に過ぎてしまいました。

先生が周産期医療に携わるなかで感じている喜びや苦勞、心傷付くこと。お産を取り巻く医療の問題や社会的な問題、子どもの愛着形成の問題に至るまで明快に語ってくださいました。特にドラマ監修にあたっては、「できうる限り正確なデータで、視聴者をミスリードすることのない



ように。人に発信するには科学的根拠が必要である。」という話から、先生の誠実なお人柄と、多くの人々に影響を与えるドラマに関わるからには、大きな責任を持つという先生の覚悟を感じ、感銘を受けました。講演の最後には、「次の世代を育てる視点を持ち、地域一丸となってやっていきましょう。」という温かいお言葉をいただき心が熱くなりました。

←萩田先生 と コウノドリ主演の綾野剛さん

◆基調講演 「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援」

文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 松崎 美枝 先生
まず、子供たちが抱える健康課題の多さに圧倒されました。体の健康としてアレルギー疾患や肥満、スポーツ障害。心の健康として発達障害や友だちとのトラブル、いじめ、家庭での人間関係、教職員との人間関係など、枚挙にいとまがありません。松崎先生は、それらを解決するために「協働の文化を学校に取り入れ、養護教諭の専門性を生かしていくことが大切」とおっしゃっていました。そしてそのために、自分がどのような能力を身につけていったらよいのかを考えることが大切で、「常に学び続けるモチベーションを持った養護教諭であって欲しい。」と激励してくださいました。

◆フォーラム「子供たちの現代的健康課題の解決における養護教諭の役割」

シンポジウムに先立ち、4名（幼・中・高・支援）の先生方から実践発表がありました。校種もテーマも違う実践の根底には「チーム学校での養護教諭の役割とは」というテーマが流れ、発達段階や児童生徒の実態を基にした実践発表では、先生方の並々ならぬ熱意が込められていました。それぞれの養護教諭が担った役割や、それぞれの先生が持っていたであろう信念を、コーディネーターの後藤先生がまとめてくださっていたのでご紹介します。

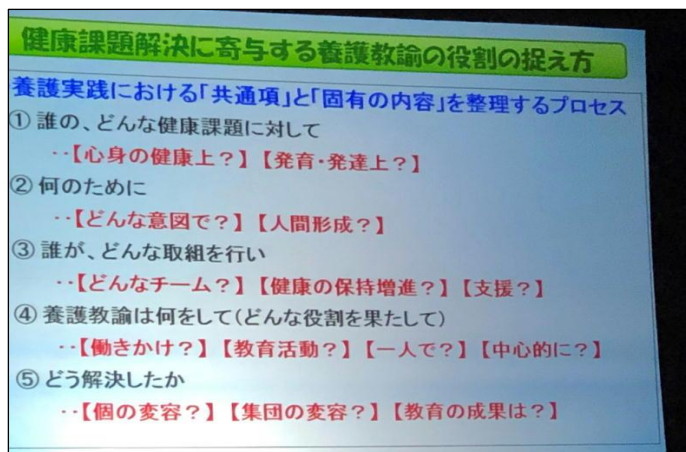
【幼稚園】 ・子供の自尊感情を高めていく ・自分の体を思いやる力をつける取組
・子供の「できた」を大切に作る ・小さなことでもほめる ・個をみる

【中学校】 ・学校をチームとして成り立たせる養護教諭としての秘訣
・地域の養護教諭同士のつながりを実践に生かす
・そのポリシー（こだわり）がエネルギーにつながる

【高等学校】 ・高校という専門家がそろっている場で、チームをつくりあげるがんばり
・養護教諭の視点「子供の側に立つ」がぶれない

【支援学校】 ・「その子は卒業しても支援が不可欠だが、その支援が少しでも減らせるように考えて」の 関わり
・社会的自立は難しいかもしれない生徒が、少しでもそこへ向かえる支援を

「チームで協働していくには、自分自身の専門性に自負がなければならない。そのためにも常に資質向上への努力を怠らないこと。そして協働する相手の専門性を認めること。」という後藤先生の言葉が印象に残りました。やもすると、独りよがりになりがちな自分を戒める言葉として大切にしていきたいと思いました。



最後に、今後とも全国養護教諭連絡協議会研究協議会が、「養護教諭（と）は」を追求し深める機会であり、私たちの研鑽の場であり続けることを願っています。

最後に、今後とも全国養護教諭連絡協議会研究協議会が、「養護教諭（と）は」を追求し深める機会であり、私たちの研鑽の場であり続けることを願っています。

地区だより（上都賀地区）

日光市立落合東小学校 鈴木 幸子

上都賀地区は、小学校 53 名、中学校 25 名、県立学校（高校・特別支援学校）11 名、合計 89 名の会員で構成されています。全体研修を年 2 回、春と秋に開催しています。その他に、日光市と鹿沼市と県立学校に分かれ、それぞれ年 4 回ほど研修を積んでいます。

6 月の春の研修会は、上都賀教育事務所副主幹 荒川先生から『健康教育の現状と課題～学習指導要領の改訂と学校保健』と題してお話をいただきました。総則に則り、3 つの資質能力を育成する。従来の蓄積を生かし、生きる力を一層推進してほしいとのことでした。

11 月の秋の研修会では、『子どもの心の回復を育てる～レジリエンス入門～』と題して、星槎大学大学院 教育学研究科教授 仁平義明先生からお話をいただきました。

親からの「虐待」などで、強く長く続くストレスがあっても、「負の連鎖」を起こさずに、精神的に健康に育っていき、良い親になる子どもの存在に注目し、「いじめの問題」よりも「心の回復」の研究が世界各国では進んだそうです。心の回復がみられた子には、メンターの存在があった。メンターとは、自分を見守ってくれる人は必ずいる、と信じ、必要な時には、人の助言や助けを求めることができる、またそのような人が存在したということです。「自分に関心をもってくれた」「自分のために自己犠牲を払ってくれた」ことにより、心を回復しようと向かうことができます。

教師・学校ができることとして、一人一人の子供に「自分は関心を持たれている」「気にかけられている」と、具体的に感じさせてください。子供たちのために、教師・学校は、何か「少し」だけ自己犠牲を払ってください。そして、実際に見放さないでください。そうすることにより、子供たちは、自分のためだけでなく、他の人のためにも生きるはずです・・・と、心を込めて話されていたのがとても印象に残りました。





役員退任に当たって

栃木県立真岡高等学校 条川 浩子（副会長）

平成 24 年の Xmas イブの日に齋藤前事務局長から要請があり、本会役員にデビューをしました。それから 6 年間、書記を 1 期、事務局長を 2 期務めさせていただく中で、本会がこれまで多くの先輩方のご苦勞で成り立ち、運営されてきたのかということ、私自身が役員となって初めて実感することができました。書記としての 2 年間は、研修会の開催通知の発送や記録の仕事を担当し、実務を通して本会の運営の在り方を学びました。それを基に、その後、事務局長としての 4 年間では、養護教諭の職務において不易の部分「変わらないもの」を大切にしながら、時代のニーズにも柔軟に対応できる研究会を目指して活動してきました。

任期中、最も力を入れて取り組んだのは、働き方改革の観点から、本会の活動の在り方について見直しを行ったことでした。渡邊会長のリーダーシップのもと、役員が力を合わせて活動内容を精査すると共に、10 地区の会員の意見を吸い上げ、会員にとっての負担をできるだけ少なくしながら、活動内容の充実も図れるように取り組んできました。その成果の一つとしては、本会の秋季研修会と県教委主催の養護教諭研修会の同日同会場での開催があげられると思います。この実施に漕ぎ着けられたのも、役員をはじめ、全ての会員の皆様のご協力の賜と心から感謝しています。

結びに、現在、養護教諭は各校の教育相談体制の中心的な立場で、コーディネーターの役割を果たすことが求められています。校内外において養護教諭への期待はますます高まり、役割が拡大してきている状況です。その推進のためにも、まず、皆様自身の健康維持・管理にご配慮いただきたいと思います。会員の皆様、調査研究や研修会運営へのご協力をいただき、本当にありがとうございました。本会のますますの発展を祈念し、退任のあいさつといたします。

那須塩原市立東那須野中学校 月井 貴美子（副会長）

初めて本会の理事として「しろたえ編集」に関わらせていただいたのが、平成 25 年度からでした。また、平成 27 年度からの 4 年間は副会長を務めさせていただきました。副会長の話をいただいたとき、迷っている私に「そういう年齢と経験を積んだということだよ」と背中を押してくださった校長先生には、こんな貴重な経験をさせていただいたことに感謝しています。あっという間に 6 年が経ち、特に副会長の 4 年間は、養護教諭の在り方を考える機会をいただいたと思っております。しかし、とにかく副会長の仕事を滞らせてはいけない、繋げなくてはという思いで仕事をしてまいりました。今は、少しは繋ぐことができたかなと安堵しております。

副会長在職中特に、講師探しや依頼に苦戦しました。著名な方は、ご本人と話すこともなく当日を迎えたり、秘書との話で講演依頼が終わったこともありました。研修会当日、講師が来なかったらどうしよう、ごめんなさいでは済まないと不安でした。それでも、連絡はメールが多いことを良いことに厚かましいお願いもしました。メールを使ったお蔭か、朝昼夕とパソコンをチェックする習慣がついたことは、私の中での成果です。

令和元年度が栃木県養護教育研究会創立 71 年目になります。時代は刻々と変わり、子供も保護者も変わりつつあります。私たち養護教諭への要望も変わり、執務内容も変わっていくでしょう。どのような時代がやってきても、学校に常駐している心と体の専門職として、A I には真似できない養護教諭でいたいと思います。

本会のますますのご発展と会員の皆様のご健康をお祈りしています。本当に 6 年間、お世話になりました。ありがとうございました。

足利市立けやき小学校 大山 美登里（理事・しろたえ担当）

春と秋の研修会で舞台に上がっている役員の先生方を見て、普段の仕事の他にプラスして役員の仕事をするなんてすごいな～と他人事の様に思っていた私が、その中に入るようになった時は不安でいっぱいでした。一緒に仕事をさせていただき、委員会や研修会など回を重ねるごとに不安も薄れ、本会のために・会員の質向上のために・どうやったら研修会をスムーズに進行できるか等検討しながら、労を惜しまず働く先生方がとっても素敵にみえて、一緒に過ごせることが幸せに感じられるようになりました。そしてこんな私でも少しでも役に立てればと思い、頑張った 4 年間でした。主に「かがやき」発行・「しろたえ」編集を担当し、苦手だった文章の校正・メールのやりとり等を改めて勉強しました。「しろたえ」の内容については、70 周年を迎えるにあたり編集委員会で協議し精選しました。年度をまたいで配布していた「しろたえ」を年度内に配布するようにしたことは、一歩前進した改革だったと思います。発行にあたり御協力いただいた会員の皆様ありがとうございました。役員の先生方から他地区の様子をお聞きし、県内全体をみる広い視野を持てたことは、日々の学校の執務だけでは体験できない貴重な経験だったと思います。共に仕事をさせていただいた本部署員の先生方、本当にお世話になりました。本会のますますの発展を心よりお祈りしています。

栃木県立のざわ特別支援学校 山本 英子（理事・レベルアップ担当）

平成 27 年より 2 期 4 年間、しろたえ編集委員、調査研究委員、レベルアップ研修会を担当させていただきました。会の運営を通して、先輩方のきめ細やかな仕事の軌跡に触れながら、多くの先生方の迅速で的確なお仕事ぶりを間近で拝見できたことは、大変貴重な経験となりました。担当したレベルアップ研修会では、講師の選定や企画運営に難しさを感じることもありましたが、「今回も勉強になりました」「参加して良かった」等の感想に励まされました。また、日常の執務に追われている中でも、課題や問題点を見出だし、解決するために何を学ぶべきか、自分に不足している知識は何か、を見極め、研鑽を積まれている先生方の“学ぶ姿勢”に、養護教諭として専門的力量を高める事の大切さを教えていただきました。今年度で第 8 回を迎えるレベルアップ研修会ですが、知りたい情報や学びたい知識の習得を目指して、『聞いてみたい講師』をリクエストできる研修会なので、是非多くの先生方に積極的に参加していただきたいと思います。退任にあたり、これまでお世話になった先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

塩谷町立船生小学校 古宇田加代子（理事・会計）

役員の皆さんと初顔合わせの春の研修会の時、不安と緊張で役員控え室のドアをなかなか開ける事ができませんでした。ドアを開けると、忙しそうにてきぱき動いている先輩役員の先生方を拝見し、「自分に、果たしてできるのか」ととても不安だった事が思い出されます。

私は、しろたえと慶弔の会計・しろたえ編集の仕事に携わりました。勤務校の執務、地区や町での役割をこなしながら、県の仕事をするのは、大変な事もありました。

しかし、毎回県の役員の先生方から得るパワーや協力を得ながら、なんとか自分の与えられた役割を果たす事ができました。県の役員の仕事を経験し、こういう組織・役員の方のおかげで、私達は、充実した研修会に参加できるのだという事がわかりました。短い間でしたが、県の役員に携わった事で、自分も少しは成長できた点があるように思います。

最後になりましたが、会員の皆様の御活躍と栃木県養護教育研究会のますますの御発展を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。



退任される先生方

大変お世話になりました

